

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

<https://www.j-kana.or.jp/>
email: info@j-kana.or.jp



1

January , 2025
vol. 454



Contents

会長・副会長 年頭座談会	01
特集『わが恩師を語る・・・広瀬謙二』	03
建築探訪(PortPlus高層木造耐火建築物)	05
委員会活動報告「マロニエBIMコンペかながわ2024」	07
賛助会だより	09
支部のページ(横浜支部・平塚支部・海老名支部)	11
編集者のつぶやき(青春芸術村)	14

特集 正副会長座談会

令和7年の抱負



司会・進行 杉本会報誌編集特別委員

杉本委員：あけましておめでとうございます。本日は会報誌1月号の特集記事として正副会長より「令和7年の抱負」をお伺いできればと思います。よろしく願います。それではまず、新体制になりましてこの1年半どのような思いで、神事協を引っ張ってこられましたか。

山口雄副会長：神奈川会を大切にし、神奈川会が全国の事務所協会のスタンダードになるべき会と思いながら、平山会長に協力をさせていただきました。

小松副会長：平山会長の元、隔月開催だった理事会を毎月開くことで、理事役員が積極的に理事会に参加できるような環境をつくり、そしてすべての会員が同じベクトルに向かうことに心がけました。

山口英生副会長：トップが変わると激しく物事が変わると言われていますが、ポリシーの一番深いところには皆共通のものがあ、業界なり仕事がよくないとい、ということにすべては帰着するのではないかと思、います。各々表現の違いはありますが、それをうまく伝、えていくべきと思ってきました。

平山会長：無我夢中でやったというのが第一印象です。理事会に関しては参加意識を高め、参加してよかったと思ってもらえるように取り組んできました。理事会での議論は理事だけでなく、会員にも得心してもらわなければならないと思っており、理事会は議論ができる場ということを会員に浸透していけばいいのではと思、っています。また、神事協は支部と本会の両輪です、よと言いつつありますが、なかなかすべての支部に

長として行けていないのが反省点です。

この1年半で会としての改善すべきところは見えてきて、改善されてはきたものの、まだ十分だとは思っていませんので、会としてさらなる達成感とやりがいを持ってもらえるような改革を起こしていきたいと思っています。

杉本委員：続きまして、会員の高齢化や、地球温暖化による環境変化など 神事協を取り囲む様々な情勢の変化に対してどのような考えを持たれていますか。

山口雄副会長：どの業界でも少子高齢化が問題となっていますが、定年がない自分たちにとって高齢化は当たり前で、働けるだけ働くという感じはしています。ここで改めて新しい取り組みをすることは難しいかもしれませんが、まずは建築を若い人たちだけではなく、いろいろな人に興味を持ってもらえるようなものにしていかなければならないと思っています。

地球温暖化の件については会員各々が常日頃考えられているかと思っています。その会員たちで構成する団体が神事協ですので、そういう方たちが理事会や委員会での様な問題に取り組んでいけば、いろいろな意見が出、いい方向にもって行ける、それが神事協のいいところだと思っています。高齢化に関しても同じだと思います。

小松副会長：地球温暖化とか環境変化に対応するにはある程度年齢も若くないと、災害時に迅速な対応が取れないのではと思っています。個人的には若い会員

を中心とした会づくりが必要で、理事役員に年齢制限を採用してもいいのではと思っています。人によって動き方は違いますけれども、若い人にシフトするような形をつくっていった方がいいかと思っています。また最近では青年部会でワンコインナイトの様に若い人たちが積極的に参加できる窓口を設けていただいているので、若い人たちが会に関わりやすい環境が整ってきたと思っています。

山口英生副会長：今回、マロニエBIMコンペかながわに於いては、働き方改革による影響で社会人からの応募が激減しました。いままでは仕事が終わった後に仲間同士でチームを組んでやっていたのが、コンプライアンスからできなくなりました。今後はこの辺りを睨みながらイベント等の企画を考えていかななくてはならないと思います。高齢化に関しては30年前から言われ続けている気がしますが、むしろ会員の層を厚くし、隙間が空いてきているところを埋め、高齢だから引退とか、役職から離れてくれではなく、やりたい人はやることで、層をどんどん厚くしていきたいと思っています。層が厚ければ、「誰かがどこかでどういう形で助けてもらえる会」という認識を会員全員が持てるのではないのでしょうか。環境（防災）に関しては建築三会で構成している神奈川県建築会議が今後有事の際に機能する組織になると期待しています。

平山会長：大方の話は出ましたが、少子高齢化に関してはサポートセンターを立ち上げ、今後は若い人向けにも更なる充実を図っていききたいと思います。また、神奈川県建築会議も学生や若手設計者に振り向いてもらうために建築の楽しさとかやりがいを発信していかなくてはならないと思っています。防災に関しては、神事協として、自身が被災し自治体も被災している場合にどのように対応するのか、また広域連携をどのようにするのかを考えていかねばならないと思っています。神奈川県も広いので、海の自治体と山の自治体とでは考え方も違ってくるので、それぞれの自治体に対応して行動していくのが神事協の役割かと思っています。

杉本委員：最後に 令和7年の新春を迎えるにあたり、また創立50周年を間近に控えるにあたり、皆様の抱負をお聞かせください。

山口雄副会長：2025年の建築基準法改正に対して、建築士サポートセンターの構築に法定団体である神事協が関わり、そして会員をサポートすることが私の抱負です。創立50周年に関しては今後の60周年に向けての50周年的なものをみんなで考えていきたいと思っています。

小松副会長：建築事務所協会の認知度を高めていくためにも、もっと宣伝を行い広めていけたらと思っています。また、建築基準法改正に伴い次世代へつなげる技術改革を行い、正しいものへ導いていこうというのが私の抱負です。

山口英生副会長：先ほどのマロニエBIMコンペかながわですが、今回、学生の出展が多く、内容を見てみると、表現方法は手書きからBIMそして動画になっている違いはありますが、私たちのアナログの頃と根本的な建築に対する情熱とか建物や街を考えることに関しては何も変わっていないということがわかり、未来は明るいなと思いました。建築士が減っている中で一定数の若い人たちは、私たちが経験してきた境遇と同じところにいるという確信が持てました。

平山会長：今回の創立50周年は半世紀ということで、まだ思案中ですが、技術革新の節目にもあたるわけですので、何かをきちんとやりたいと思っています。例えばBIMコンペの神事協版なども視野に入れていきます。また、創立50周年のテーマとしては神事協の可能性ではないかと思っており、時代時代に合わせて10年単位で物事を考えていき、委員会の構成や事務局を変えていきたいと思っています。あらゆる意味で「持続可能性の追求」を基本として考えていければと思っています。

杉本委員：本日はこれからの神事協を考えるうえで忌憚のないご意見をお聞きすることができました。

ありがとうございました。

神奈川県建築会議：

（一社）神奈川県建築士会・（公社）日本建築家協会 JIA 神奈川・（一社）神奈川県建築士事務所協会の神奈川の建築3会で構成する組織

私の恩師「広瀬謙二」

株式会社ユー・アール・ユー総合研究所 小澤 勝美

建築との出会い

小学校4年生の頃、清家清邸へよく遊びに行きました。息子の篤氏とたまたま同級生で、「私の家」と知らずに変わった家だなあの印象でした。その後、放蕩三昧でしたが、大学受験の時にふと「私の家」のことを思い出し、建築学科を受けた次第です。武蔵工業大学に入学しても、山歩きやアルバイト、バイク等に興じ、建築への情熱はあまり感じられない学生でした。

恩師との出会い

先生(1922～2012)の授業(1977～1978)で印象に残ったことは、授業中に話声がするとその音源にめがけてチョークを投げることで、当人にあたることはなく、いつもすまんといい、又は本来小声でマイクを使うのですが、「マイクを切るぞ」と静粛にさせました。みんなは「広鎌(ひろかま)」と呼び、一定の人気がありました。

3年後期の研究室を決める時期となり、何故か大学院生から研究室に遊びに来ないかとの誘いがあり、手伝いをしながら、研究室の概要が見えてきました。そこそこ人気がある研究室で、条件がありました。ゼミは深夜に及ぶこと、そのため車を所有していること、2週間程度のゼミ旅行があること、卒業設計と卒論を両方行うこと等でした。

恩師の日常

研究室での夕飯は研究室で原則、皆で食事をします。夜の21時頃からですが、近くのなんでも食堂「たまき」からの出前です。先生は何時もざるそばのみで、1.8mを超える体をよく維持できるなど不思議な想いでした。食事を終え、22時からゼミが始まり、翌朝の3時ごろ終了です。車で帰るもの、研究室で寝るもの、近くの友人宅で過ごすもの等多様でした。深夜での出入りが管理人室からのクレームとなり、本学を通じ連絡が度々ありましたが、馬耳東風でした。

ゼミ研修旅行

毎年、国宝の神社仏閣見学の研修旅行を行っていました。先生の著書「伝統のディテール」を携えての苦行であり、心に残る旅でした。私どものルートは愛知、岐阜の数件を見て、京都、奈良、中国地方の山口までが主な研修です。

先生の日産グロリアをはじめ、4台を連ねての国宝

の旅です。寺社、神社の建築の国宝は、辺鄙で町中とは離れた場所にあります。狭い畦道、農道、高所の参道など今も脳裏に焼き付きます。印象深いのはやはり兵庫の浄土寺浄土堂で、先生が一番好きな国宝です。僧重源が建立した天竺様のお堂であり、外部はシンプルな普通の端正なお堂であります。中に入ると外部からは想像できない宇宙のような神々しい、ぜひ一度は見てほしい空間です。西から夕陽を受ける観音像は後光を浴び、天から舞い降り、教えを語るようなイメージです。その他室生寺の五重塔、瑠璃光寺の三重塔や法隆寺、飛鳥寺の跡地等、今でも目に浮かぶ国宝たちでした。

卒業設計、卒業論文

先生は1962年東大で学位論文「建築部品の性能と精度に与える条件」で博士号を受けました。40歳の時です。先生の代表作でもあるSH-30は医学部教授のお宅で、設計段階で執拗なまでの調査を、ご夫婦や敷地の景観や力(パワー)等に対して行ったようです(SHは鉄の家の意)。設計する前の調査が大事だと考え、卒業する学生には卒設、卒論を課し、我が家の住宅内にある箸から椅子の寸法や建物の隅々の寸法を測り、絵にまとめた課題を思い出します。

恩師の言葉

印象的な言葉が4つあります。

- ・建築基準法は建築を魅力的にしない。
- ・水は勾配がなくても流れる。
- ・窓ガラスも構造体として使える。
- ・石は1400年、コンクリートは60年

他にもハッとさせる言葉はありますが、すべて事実であると思いますが、先生の性格を表現した言葉だと思います。都市に木造建築が建てられない不合理性、建築の精度に対する追求や材料の持つ特性の究極を求める姿勢が表れていると推察します。

恩師の業績

先生の最新の工業技術を追及される場合は、その基本は常に日本の伝統文化というべき古建築の木組等への造詣を持つとされています。先生の作品でその想いが徹底的に追及され、美しいディテールに表現され、独自の世界を開拓している研究者であり、建築家であり、大いなる教育者でもあるとされています。

敗戦直後の昭和20年代、日本の人々は経済的にも貧困のどん底にあえいでいました。先生にとって「少しでも品質が良く、生産コストの安い住居を大勢の人々に供給するにはどうしたら良いか」というテーマは当然の課題でした。そこで、ほとんど実現されていなかった建築生産の工業化や「モジュラー・コーディネーション」の問題に取り組みました。それが全く新しい工業製品としての軽量鉄骨による住宅のきわめてすぐれた作品をSHシリーズとして発表しました。

SH1は最初の鉄骨住宅で、新婚時代の自邸であります。設計の動機は「創造ということは自らが創り出すこと、それまでの経験のなかに全く存在しなかったものを対象にすることで、設計の過程のすべてを創造に頼る以外、方法がないような環境に自分を追い込にでしめることであった」と言います。その後、SH65の自宅とSH67まで続きます。

SH30は広瀬謙二の代表作であるだけでなく、戦後の鉄骨住宅が到達した一つの頂点であると言えます。

教育ということ（先生の言葉より）

創造を至上の目的としてきた人間にとって、後に続く若い人達も、そうあってほしいと切に思う。人は快い感動を求める。音楽、絵画、文学、造形美術、そして建築も例外でないとすれば、人類は常に感性が求める美意識の基に、よりよい環境の創造に努めてきたはずである。結果の善し悪しは、時々の評価によるものとしても、今残る歴史遺構の数々は、そうした試行錯誤の足跡なのである。これを目的完遂への苦闘の跡とみれば、遺構が語りかける教訓には耳を傾けるべきことが多いことを知る。歴史こそ不可欠の知的教養なのである。



広瀬 謙二
1922年 12月12日 鎌倉に生まれる
1942年 武蔵高工建築科卒業
1949年 村田政真設計事務所入所
1952年 広瀬謙二建築技術研究所開設
1966年 武蔵工業大学建築学科専任教授
1993年 武蔵工業大学退官
2012年 2月7日死去



■SH-30（牧田邸）



■SH-1（自邸）



■製図課題としてのスケッチ



■飛鳥寺推定復元パース

PortPlus 高層木造耐火建築物：大林組次世代研修施設

サイプラス
株式会社SAIplus建築設計事務所 仙波 弦

以前より、通りがかるたびに気になっていた建物ですが、偶然、見学会参加の機会を頂く事ができましたのでご紹介したいと思います。

横浜市中区にあるこの建物は大林組さんの次世代研修施設として、日本初の「高層木造耐火建築物」という事で、主に4つのコンセプトを基にこれからの知を育む場として、実験的という表現が適切か分かりませんが、積極的にいろいろなことを挑戦している趣旨を感じる建物でした。

高層、耐火、を木造で実現するための技術や、その社会的意味、目的が明確で、関心致しました。

また、外観も特徴的かつダブルスキンの綺麗なディテールを構成しており、詳細な工夫をしています。



■正面 外観

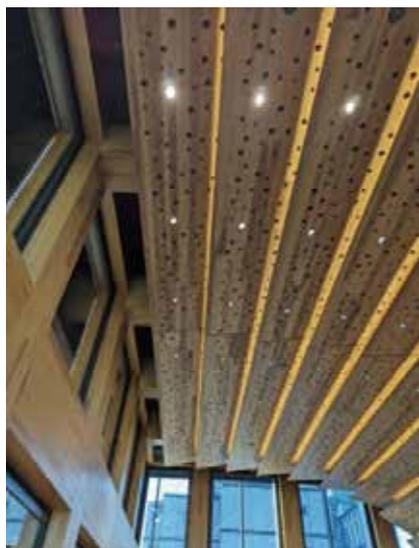
■4つのコンセプト※

- ①「PROMOTION」
大林組を体感する
「プロモーション」拠点
→新しい企業文化の醸成／発信
- ②「INNOVATION」
ヒトが環る多様な
「イノベーション」の場
→つくるを拓くにつながる実践／学び
- ③「WELLNESS」
自然（光風緑木）が環る
「ウェルネス」空間
→自身の健康に対する意識向上
／気付き
- ④「SUSTAINABILITY」
モノ・資源が環る
「サステナブル」建築
→循環型社会への理解／啓蒙

※パンフレットより引用

建物は、地下1階、地上11階建となっており、2面性のあるシザーズ階段で各階がつながっています。3階まではプロモーションスペース、4階～7階はワークスペースやコミュニケーションスペース、8階～リラクゼーションスペースやセミナールーム、宿泊ゾーンという、大きく3つのPortに分けており、建物全体としても吹き抜けや高い回遊性を有する空間となっていることで、つながりを感じる事ができて、かつ集中もできるようなメリハリのある建物になっていました。

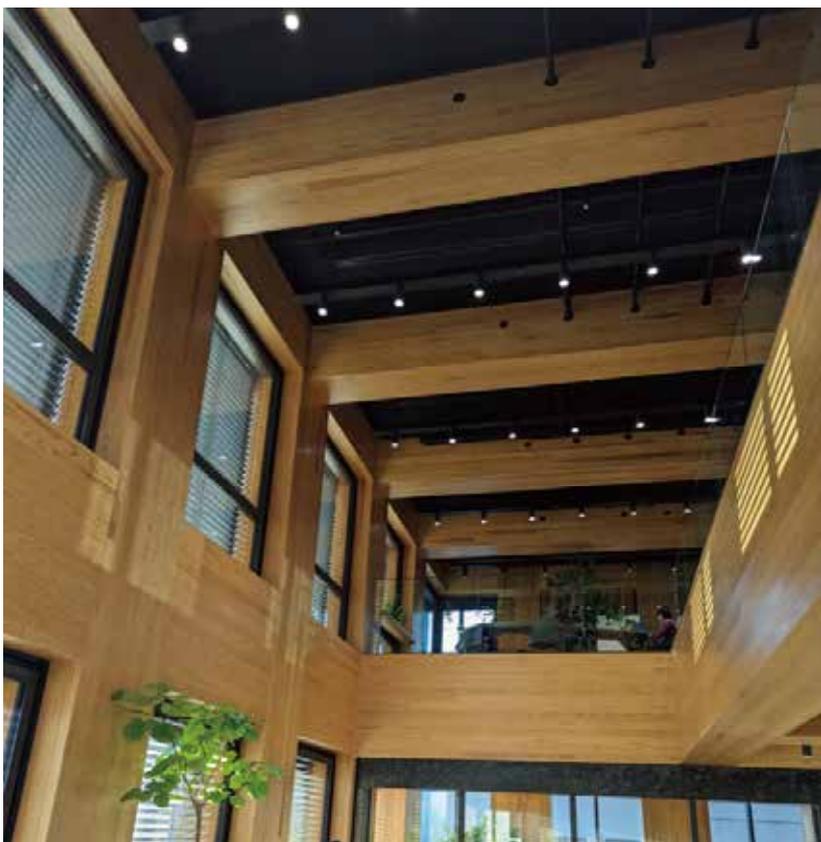
メインはもちろん木造の高層建築で耐火性能を有するという事になりますが、それだけではない事を十分感じることができる建物でした。



■9階 セミナールームの天井



■各階の情報タッチパネル



■つながりのある吹抜

意匠や構造に目が行きがちですが、設備に関してもいろいろ挑戦をしており先進的でした。

各階に大型タッチパネルが設置され、電力状況、自然換気判定、トイレ空き状況、EV混雑度などが表示され、ブラインドと照明操作も行えるようになっていました。

また、宿泊室に関してもタブレットでの操作、管理ができるようになっており、自分への配慮や気付きが生まれるような仕組みがありました。

今後建物がどの様になっていくか、観測データやメンテナンスデータも蓄積されていくという事で、10年後、20年後に改めて見てみたい建物だと感じました。



■PortPlus

所在地：横浜市中区弁天通二丁目22番、23番

敷地面積：563.28㎡

延べ面積：3502.87㎡

設計施工：株式会社大林組

↓ 詳細な情報はHPに掲載があります

HP：<https://www.oyproject.com/#top>

委員会活動報告

近い未来を見せてくれた「マロニエBIMコンペかながわ2024」開催

マロニエBIMコンペかながわ2024実行委員 早川 慶太



過去に例のない動画での作品提出

BIMの可能性に満ちた瑞々しい作品と最先端を感じさせるプレゼンテーションにより、マロニエBIMコンペかながわ2024が開催された。課題を「継承の作法とデザイン ～都市と建築のパブリックスペース～」として、横浜市中区のセントラル関内地区にある関内桜通りおよび、通りを挟む2つの既存建築物を対象敷地として提案を求めた。またマロニエBIMコンペにおいて過去に例のない動画での作品提出という方式を試みた。どのような動画が集まるのか不安と期待を込めて作品を待つことになる。

の感性により作られた動画は、これまでの建築コンペのプレゼンテーションとは一線を画すものとなり、審査委員も会場の参加者も皆が口を揃えて楽しかったとコメントする公開審査となった。最先端のプレゼンテーションをYouTubeにアップしているのでも「BIMコンペかながわ」で検索してご覧いただきたい。



プレゼンテーションの質疑

最優秀賞、優秀賞を受賞した3作品

見事に最優秀賞（国土交通大臣賞）を受賞した「開花する隠れた情景たち」は社会人チームらしい完成度の高い作品であった。通りの桜を見る行為をキーワードに、小さな情景を共有する仕掛けを空間化して、小さな場面とひとの想いが波及していく関内の未来を提案してくれた。その設計手法は建物内外の視点をBIMを使ってシュミレーションして建築に落とし込み、検証から導き出されたヴォイドを既存建築に挿入するというもので、裏路地までヴォイド介して桜の情景が展開されることが審査委員長の西田氏からも評価された。また図面に残らない設計段階の検討線をBIMデータとしてオープンソース化し、街の次の建物がそのデータを設計の与条件として使うこと



審査委員と会場

これまでとは一線を画すプレゼンテーション

さて蓋を開けて、集まった動画作品はどれも力作揃い、動画の手法も千差万別、その中から一次審査を通過した8作品（学生6作品、社会人2作品）により、公開プレゼンテーションによる二次審査を行った。驚いたのはBIMの3D動画だけではなく、アニメや手書きのスケッチがマンガのように展開されるプレゼンテーションもあり、ショートムービーを見ているように楽しかったことだ。緊張しながら話す若々しさと、動画が身近な環境

で、桜を見る行為が継承されていくという、BIMの活用が建築から都市へと展開されていくとても優れた作品であった。



審査委員長・西田氏の講評

次に優秀賞（よこはま・関内まちづくり賞）を受賞した「Egg Plant」はクリエイターが集まるものづくりの街として、クリエイターを全面サポートする仕掛けで街をもっと魅力的にしようと提案してくれた。たまごをモチーフにした仮設ユニットが街に展開されていく、ウィットに富んだ作品であった。特に発表の7分間を一次審査からブラッシュアップした動画で全て行うという、見たことがないプレゼンテーションが秀逸で、審査委員の番匠氏も建築学科の学生がこんなプレゼンテーションをする時代が来るとは感慨深いコメントしていた。



審査委員・番匠氏と受賞者の談笑（懇親会）

同じく優秀賞（日事連賞）の「ストリート トゥリトリート」はストリートからリトリート（隠れ家）に人をいざなうことで新たな街歩きを提案してくれた。街の特徴的な防火帯建築の外壁を残すことで、建物内部に新たにつくる半屋外空間（隠れ家）が効果的に現れる空間手法が素晴らしく、それを魅せるイメージ動画もおしゃれでクオリティーが高く素晴らしかった。風景の継承と新たな人の流れを、ひとつの手法でつくりだしていることにセンスを感じた。またBIMを活用して街のざ

わざわ感をざわざわランプという外灯に見える化するアイデアも評価されていた。



審査委員・田中氏と受賞者の談笑（懇親会）

仕事を建築だけに留めず、むしろ広げていくことに

優秀賞を受賞した3作品を紹介したが、他の作品も建築と街づくりに真摯に取り組む建築的なアイデアと、BIMを活用した空間や素材のログ化やコミュニティにつながるUI（ユーザーインターフェース）が提案され、近い未来を見ているようでワクワクさせられた。また審査委員の皆さまからも温かい講評をたくさん頂き記述しきれないが、審査委員でコーディネーターでもある池田氏は、建築の設計だけではなくその後に、BIMデータをどうリユース、リサイクルに活用するかを考えたり、ひとに伝えるためにUIやそれ以外のことにどう取り組んでいくかを考える事は、建築家の仕事を建築だけに留めず、むしろ広げていくことに目を向けることになるかと仰っていた。



審査委員・池田氏の講評

箱をつくる時代から場の利用とデザインを考える時代になっている今、我々実務者が真剣に取り組むBIMの価値は職能を広げるツールとして認識することであり、そのアイデアを垣間見せてくれることに、マロニエBIMコンペの意義があるのではないかと。次はどこでどのような作品が提案されるのか今から楽しみでしかたない。

賛助会だより

新年を迎えて

神事協・神奈川賛助会 会長 中央開発株式会社 西原 聡

新年あけましておめでとうございます。

3年間続いた新型コロナウイルスによる行動制限がなくなり通常の行動ができるようになり、インバウンドによる観光需要のV字回復にともない観光地ではにぎわい、対面による会合も復活し、かつての活気が戻りつつあります。

一方、昨年元旦に発生した能登半島地震(マグニチュード7.6、石川県志賀町、輪島市で震度7)では、241名の尊い命が失われました。被害にあわれた方々に心より哀悼の意を申し上げます。

地震の被害は甚大で、建物の倒壊、斜面崩壊やトンネル崩落による道路の寸断、液状化によるライフライン損傷等多岐に渡っています。

9 建築分野では、10月になってようやく仮設住宅が整い、発災直後4万人超の避難所生活を強いられた方々に対して、長期に渡る避難所生活からようやく解放されつつあります。

また、地震以外に気候変動の影響により高温記録の更新、線状降水帯の発生、台風の迷走等の影響により日本各地で水害が勃発しております。

このような状況から建築分野に携わる者として、市民が安心して生活できる住環境の実現が大きな課題の一つとなっています。

しかし、輸入原材料の高騰を引き金に様々な日用品、ガソリン代や電気料金、資材の大幅値上げがあり、建築分野において、経済面では先行き不透明な状況を示しています。

●2025年の賛助会活動方針

建築分野においては様々な課題がありますが、神事協賛助会としては、新しい技術を提供し、建築士事務所の支援を第一考え、少しでも

お役に立てるよう取り組んでいく所存です。

具体的には、①支部会議での賛助会PR、②神事協主催のイベント(地引網、スポーツ大会)への積極参加、③講習会・見学会による最新情報の提供、④住まい創造フェアの内容充実、⑤技術テーマ毎のタイムリーな情報提供、⑥その他交流会・親睦会への積極参加等を推進してまいります。



なお、賛助会の活動をホームページに紹介しています。是非ご閲覧して下さい。

今年も引き続き神事協を盛り上げて参ります。賛助会を宜しくお願い致します。

賛助会ホームページはこちらから
<https://www.sanjo-kai.com/>



よろしく
お願いします

賛助会だより

『忘年親睦ゴルフ&忘年会』開催報告

神事協賛助会 忘年親睦ゴルフ実行委員長 横浜菱住株式会社 下村 康祠
 神事協賛助会忘年会実行委員長 セイキ販売株式会社 中村 守彦

昨年11月29日（金）に本会・賛助会の親睦をはかる目的で賛助会主催の『忘年親睦ゴルフ大会』と『忘年会』が開催されましたのでご報告させていただきます。

●忘年親睦ゴルフ開催報告

『忘年会』に先立ち、『忘年親睦ゴルフ大会』が11月29日（金）9時から忘年会会場にほど近い「小田原湯本カントリークラブ」で開催されました。本会からは平山会長、福田理事の2名と賛助会からは7名の合計9名（3組）の参加となりました。当日は朝からやや冷え込み、「箱根おろし」が強い状況でしたが、午後から気温も上昇し、絶好のゴルフ日和となりました。全員無事プレーを終了し、忘年会会場へ移動しました。



親睦ゴルフの参加者

●忘年開催報告

賛助会主催の『2024忘年会』は11月29日（金）18時から紅葉が美しい秋も深まる箱根湯本温泉郷の「ホテル南風荘」で開催されました。本会より会長、副会長をはじめ8名、賛助会からは19名、合計27名の参加があり、宴会、余興、二次会と大変盛り上がり、大いに親睦をはかることができました。余興では、浅草



下村 康祠



中村 守彦

サンバカーニバルでトップクラスの活躍されている3名のダンサー「スペシャルサンバガールズ」とともに、皆で踊りを堪能しました。



たいへん盛り上がった忘年会



「スペシャルサンバガールズ」の皆さん

今年も11月28日に『忘年会』を企画しています。大勢の方の参加をお待ちしています。賛助会をくれぐれも宜しくお願い致します。

2024年度 第10回 設計事務所けんちくしごと展

株式会社星工務店二級建築士事務所 星 光昭

横浜支部では横浜市役所1階で下記のように開催しました。

第10回 設計事務所のけんちくしごと展

テーマ「住・食・衣 ～豊かなくらしをめざして～」

日時：11月7日(木)～11月13日(水)

事務所の作品パネルを展示、支部会員の建築士事務所が設計した建物の写真をデジタルサイネージにてディスプレイにて映像化して繰り返し流しました。

11月9日は、よこはま建築ひろば、工作と探訪のイベントでは、子ども向けワークショップ「とび出す建物に色をぬろう」を開催。

建物の下絵にお子様に色を、ぬっていただき切り込みに山折り、谷折り通り折っていくと立体的な建物が建ち上がってきます。

この建物の下絵の谷折り線、山折り線に軽く切り込み線を入れていく作業があることを、今回初めてしごと展実行委員会に、参加させていただき知ったことでしたが、この作業が細かく時間がかかることを実感しました。今までしごと展実行委員をしてくださった人たちの協力・努力がなければ、しごと展は開催できていなかったことを気づかされました。実行委員の皆様、大変お疲れ様でした。

昨年も好評と聞いていましたが、建物に塗り絵をするという作業が、子どもたちには興味を引き親と子で塗り絵を始めると夢中のようにした。塗り絵が終わると、山折り谷折り線に沿って折り曲げてゆくと建物が立体となり、小さなお子様は声をあげて喜ばれていました。また、作業ができずに持ち帰られた人も居たほどでした。

とびだす建物ぬり絵の参加人数は、121件うち(こども169人・おとな165人)で、持ち帰りが19件とまずまずの人数だと思います。

時間を費やして細かい作業が子どもたちの笑顔につながったことに違いないと、モチベーションを上げてくれました。

来年もまたこのワークショップを開催して欲しいと、横浜市からのお話も、聞こえてきております。



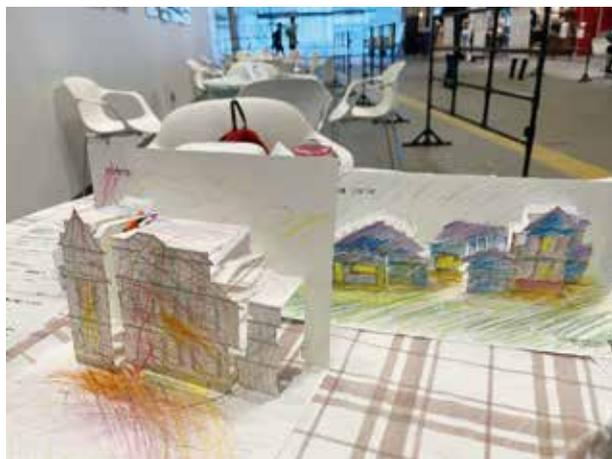
受付風景



会場全景



作品を作るのに夢中



お子様の作品

支部のホームページの開設

しばらく存在していなかった平塚支部のホームページ(以下HP)を立ち上げて1年余り経ちました。全くないのはやはり寂しいし、支部活動のアピールくらいは何らかの形で最低限しておくべきだろうということで、復活しました。華美である必要もないし、アニメーションを採用するなど今風である必要もないということで、広報情報委員でもある私がWordPressで作成したものです。

(一社) 神奈川県建築士事務所協会 平塚支部



トップページ

トップページ画像は平塚支部とも縁があり、登録有形文化財にも登録されている八幡山の洋館(旧横浜ゴム平塚製造所記念館)です。私が個人的に好きな建物ということもありますが、平成16年に横浜ゴム(株)から平塚市へ無償贈与されたのち、八幡山公園に移築・復元された建物ですが、支部としても保存活動から、工事の施工に至るまで縁があります。今では支部のアイコンとしても活躍してもらっています。

HPの内容としては、会員の紹介と支部活動のみで、実にシンプルです。それは営業的な部分は個々の会員に頑張ってもらって、支部HPとしては、半分は公の組織と言える神事協の会員であるという安心感を提供できれば十分ではないかと考えているためです。また、それくらいの方が更新作業の負担も少なく、結果として長く動き続けるHPになるのではとも考えました。最近ではPCというよりはスマホで検索されることも多いので、スマホ表示でもシンプルに表示さ

熊澤悟史建築設計事務所 熊澤 悟史

れるように配慮もしています。

控えめではあっても支部の存在をアピールすることで、会員の営業活動への援護射撃をしようという目的を、自作という最も安価な手段で、できるだけ手間を少なく実現しようと試みています。更新頻度は低いですが、1年くらい経つと、Googleなどの検索結果に表示される順番も上がってきているので、当初の目論見はそれなりの形で実現されてきています。

ちなみに、神事協の「会員サポートセンター」内に「ホームページ開設支援サービス」の項目があります。これからHPを開設してみようという方や見直してみようという方は、ぜひ一度アクセスしてみてください。要点をどこよりも簡潔にまとめてあります。この内容をチェックしておけば、失敗はないかと思います。

しごと展 2024

Posted on 2024-08-23 by j-hira

建築士のしごと展 2024

建築士のいろいろな仕事をみなさまに広くご紹介いたします。

見て、聞いて、体験していただくイベントです。

【建築士の仕事紹介】・【耐震補強の実例紹介】

【住宅耐震相談】・【建築なんでも相談会】

会場：ひらつか市民プラザ 入場無料

平塚市虹谷町 18-8

期間：9月7日(土) 10:00~16:30

9月8日(日) 10:00~16:30

展示・催し内容

・作品パネル：建築士のしごとに関する展示と紹介

・平塚市建築指導課による木造住宅耐震事業についての説明

・木造住宅耐震相談会と建築なんでも相談



日々の活動のお知らせ



第46回建築士事務所全国大会へ参加して

株式会社 エム建築事務所 三河 樹

第46回建築士事務所全国大会(福井大会)が、10月10日(木)~11(金)と福井県福井市(福井フェニックス・プラザ)にて開催され、海老名支部から私も11日(金)の午後から参加させて頂きましたので、一部では有りますが報告致します。

今大会のテーマは、「未来を拓く まち・ひと・建築」で、大会スローガンは「私たちはデザインする 考福なまち・次世代を担うひと・つなぐ建築」を掲げておりました。

11日(金)は隈研吾氏による基礎講演から始まり、途中からは進士五十八氏との軽快なトークセッションへと繋がり、隈氏と進士氏の江戸っ子のような単刀直入な話術も楽しみながら講演に聞き入ることが出来ました。

式典終了後、会場から感じた感想は私(アラフィフ)より若い世代の人間を目にすることが余りなく、どちらかと言えば先輩と思われる方ばかりで(恐らく代表者様ばかりなので仕方ない)したので、次世代を担うひとをもっと沢山とりこむのはどうしていけば良いかを考えてしまいました。確かに私が普段(設計)業務を行っている周囲にも設計者・施工者共に高齢化が進んでおります。若い人材を募集しても、興味は持ってくれても中々働いてくれるまでには至りません。この先何時になるかは判りませんが、将来このような魅力的な式典に積極的に20代30代の若い世代が参加してもらい、先人の創り上げてきた建築の良さを解って貰える1つのプロセスになれば良いと漠然ながら思いました。

ところで、我々海老名支部は毎年全国大会には開催地域の街並みや建物を支部メンバーと視察研修として少々巡ります。今回は大本山・永平寺や、福井の武家屋敷等々を少しばかり見学させて頂きました。初めて足を踏み入れる場所ばかりで、普段事務所の机と家の往復ばかりの私にはとても楽しい行事です。このような視察研修のスケジュールを毎年欠かさず作成して頂いた海老名支部の先輩が全国大会の前に残念ながら旅立たれました。よって今回の全国大会はとても思い出深いものとなりました。来年の新潟大

会も今まで通り楽しい行事になりますように。

皆様も是非視察研修も兼ねて来年の新潟大会には足をお運びください。



一乗谷復元街並



永平寺傘松閣



越前大野旧山内家広縁



越前大野旧山内家中庭



平泉寺白山神社



大会会場集合写真

新入会員のご紹介

横浜支部	
ナイス株式会社ブレカッター一級建築士事務所 〒230-8571横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1 TEL.045-501-1062	原 俊介
皆川一級建築士事務所 〒227-0035横浜市青葉区すみよし台36-24-202 TEL.090-4534-0037	皆川 明慶
GLAエンジニアリング株式会社 〒241-0806横浜市旭区下川井町260-2 TEL.045-744-7750/FAX.045-959-5161	宮川 久
川崎支部	
みなと設計室一級建築士事務所 〒210-0004川崎市川崎区宮本町6-12 GS川崎ビル2階209 TEL.044-400-2097	杉山 康之
大和綾瀬支部	
小幡剛志一級建築士事務所 〒242-0021大和市中央3-8-26 グランディール305 TEL.046-219-7115	小幡 剛志
相模原支部	
石橋ホーム二級建築士事務所 〒252-0141相模原市緑区相原5-12-1 TEL.042-773-0125/FAX.042-773-0149	堀内 温子
退会者	
横浜支部	
株式会社三井ホームデザイン研究所一級建築士事務所 株式会社北全一級建築士事務所	大芝宗一郎 北川 雄二
川崎支部	
有限会社折笠幸男建築設計事務所	折笠 幸男
大和綾瀬支部	
有限会社徳豊設計	小幡 剛志
相模原支部	
株式会社正基設計事務所	石井 正夫
変更	
川崎支部	
株式会社EQSD (事務所名・所在地・TEL変更) 〒216-0005川崎市宮前区土橋6-14-28 TEL.050-8885-6330 (旧) EQSD一級建築士事務所	
建築工房 kawasaki屋 (所在地変更) 〒257-0003秦野市南矢名2044 秦野マンションB-202号室	
伊勢原支部	
株式会社フリークス建築設計 (所在地変更) 〒259-1116伊勢原市石田893-1-108	
県西支部	
株式会社秋山設計 (指定代表者変更) 秋山 開次郎	
賛助会入会者	
株式会社サニックスエンジニアリング	

支部名	令和6年12月1日現在				
	令和6年4月1日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	253	257	12	8	4
川 崎	109	110	3	2	1
横 須 賀	48	46	0	2	-2
湘 南 三 浦	17	17	0	0	0
藤 沢	38	36	0	2	-2
鎌 倉	42	41	1	2	-1
茅ヶ崎葉川	14	13	0	1	-1
平 塚	23	23	0	0	0
秦 野	11	11	0	0	0
伊 勢 原	8	8	0	0	0
大和綾瀬	18	19	2	1	1
厚 木	30	30	0	0	0
座 間	11	11	1	1	0
海 老 名	15	14	0	1	-1
愛 川	6	6	0	0	0
相 模 原	63	63	2	2	0
県 西	37	36	1	2	-1
合 計	743	741	22	24	-2
賛助会員	93	100	7	0	7

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。
※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき



シルバーウィークに、美味しい蕎麦が食べたくなり学生の頃に訪れた山梨県北杜市の清春芸術村近くの蕎麦の名店『翁』に行った40年近く前からまだやっていて嬉しいかぎり!十割蕎麦、田舎蕎麦、湯葉と変わらない味を堪能した運転がなければお酒も飲みたいところだった。その後芸術村へ。

当時はラ・リュージュ(パリの芸術家共同アトリエ住宅)の復元/設計:グスター・エッフェルと清春白樺美術館/設計:谷口吉生 2棟だったがその後ルオー礼拝堂/設計:谷口吉生 梅原龍三郎アトリエ(移築)/設計:吉田五十八 茶室徹/設計:藤森照信 光の美術館/設計:安藤忠雄 和心/設計:杉本博司+榎田倫之 などの名建築が増えていた。

桜の木が多数あり春はお花見が楽しそうだが、しかし残念なことに少し老朽化していて連休でも来場者が少く折角の芸術村が寂しく思えた。

近くには台ヶ原宿があり、通りには創業120年の和菓子「金精軒」 創業300年の酒蔵「七賢」などが建ち並び観光客で賑わっていた。

『清春芸術村がんばれ!!』とつぶやきながら美味しそうなスパークリング日本酒と肴の発酵鴨を買い帰路に着いた。

(県西支部 長川建築デザイン設計事務所 長川 勉)



KANAGAWA 令和7年1月号 (通号454号)

発行 令和7年1月1日 (奇数月1日発行)
 発行人 平山 正義
 発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
 〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2F
 TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
 印刷所 株式会社 柏苑社

- ・ 担当副会長 小松 正道
- ・ 担当理事 田中 正幸
- ・ 会報誌編集特別委員長 小泉 厚
- ・ 会報誌編集特別副委員長 仙波 弦
- ・ 会報誌編集特別委員 雨森 隆子 小河 泰隆 森本 和樹
- ・ 戸井田 顕 中原 尚代 杉本 勝郎
- ・ 長川 勉
- ・ 事務局 小林 恵美



今月の表紙 みなとみらい

山があり、海があり、街があるととても住みやすい神奈川県。富士山や丹沢山系の山々と、穏やかでたくさんの魚がとれる豊かな海を、発展した技術でつくられた建物のある街と共に見ることができる場所です。これらのことを象徴するような景色に、新鮮な気持ちになります。

(表紙写真・文 仙波 弦)
